

令和4年度 学校評価結果

学校法人 高松学園
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園

今年度も「新型コロナウイルスの感染防止」のために、様々な園行事の制約等がありましたが、新しい生活様式と共に少しずつ受け入れられてきた「新たなやり方」の中で、園児も様々な体験に取り組むことができました。

今年度新たに「ESD」に取り組むために、SDGsについて取り組み始めました。子どもたちの目に触れやすい場所にテーマを持った展示を行うと共に、年少児にもわかりやすい身近な部分から入り、年齢によって年長児は世界に目を向ける機会も多く持ちました。また、例年地域の文化に触れ、遊びに取り入れたりしてきましたが、新たに工場見学を行うことで産業の分野に触れることもでき、子どもたちの経験の幅が大きく広がったのではないかと嬉しく思っています。

この度、保護者アンケートや教職員の自己評価等の集計を基に、学校関係者評価委員の皆様からご意見をいただきました。ここに令和4年度の学校評価結果を公表いたします。

1. 教育及び保育の精神

- (1) 仏教精神を根底においた、ともに育つ保育を行う。
- (2) のびやかに自己を発揮する保育を大切にすること。
- (3) 子どもが自ら環境にかかわってつくりだす遊びを保育の中心におく。
- (4) 教育・保育に関する専門性を生かした保護者及び地域等への子育て支援を行う。

2. 教育及び保育の目標

- (1) 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- (2) 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- (3) 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- (4) 日常の会話や絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- (5) 音楽や身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- (6) 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

3. 重点目標

- I、子どもが遊ぶ中で、自分なりに遊びへの思いをもち、「発見」「試行」「想像力の発揮」などを通して、自分なりのやり方で、或いは友達と協力しながら、発達に必要な体験や学習を重ねていく姿を大切にする。

- II、屋外活動を充実させ、園内の自然環境や地域の自然を日々の保育に積極的に取り入れていくと共に、地域の文化等にも触れ、E S D（持続可能な開発のための教育）による幼児教育に取り組むようにする。
- III、保護者と保育教諭等が互いに連携し協働の精神をもって子ども達の教育・保育を行うようにする。

4、自己評価項目の達成及び取り組状況

分野	評価項目	評価	取り組み状況
園の管理	教育・保育目標の周知	A	保護者アンケートの結果から見ると、A（達成されている）B（概ね達成されている）評価が多く、今年度もプラス評価が100%に近い数値になっていることは喜ばしいことです。しかし、今回は年齢の上の学年にマイナス評価が若干名でしたがありました。丁寧な保育に満足するだけでなく、保護者の方の教育への期待感に対し、園が十分にお応えできなかったものと反省し、保育教諭一人一人の資質向上に向けた努力を重ねていきたいと考えます。
	危機管理体制の整備	A	園が寺の境内にあることから外門の施錠が難しく、例年同様心配に感じられる保護者の方もいらっしゃり、不十分との回答が1割弱ですがありました。今後も不審者侵入防止への対策（玄関の施錠、来訪者への声かけ等）や、保護者も含め園内に入る際の事務室への申し出、来園証の着用をお願いを丁寧に行っていきます。 園バスの事故・事件を受け、安全規定や安全運行マニュアルを設定し直すと共に、バスのスモークガラスを透明に替えるなどの措置を速やかに行い、安心して利用していただけるようにしました。
	家庭、地域、関係機関への情報発信	A	コロナ禍において地域公開事業が減少していると共に、地域の方との関連事業は年長児が行っていることから、他学年の家庭はWebサイトに掲載される情報で知ることが多くなっています。情報発信は頻繁に行っていますが、Webサイトを閲覧される保護者が多いとは限らず、今後は他学年の活動が見やすい場所に掲示・掲載できるようにしたり、園の様子を知らせるお便り等で全体に向け配信したりできるよう工夫していきたいと思います。 様々な関係機関との連絡等は密に行うことができ、子育て支援・家庭支援での連携を図ることができたと思われまます。
	子育て支援	B	保護者アンケートからは、「保護者との連携」「子育て相談」等の面において、未満児は100%に近い高い評価を受けている一方で、以上児で1割を超える低評価を示す学年もありました。怪我等体調不良への対応、気軽に相談できる関係等に今後の課題が見えてきました。ご回答いただいた方の少数だったとは言え、一人一人の園児に向き合っていくとき、保護者一人一人の「お子さんへの願い」にも向き合っていきたいと感じています。 相談窓口を設けていたり関係機関と連携を図ったりしており、子育て支援の体制は十分に整っているものの、利用しやすいかという点は今後の課題として取り組んでいきます。
教育活動			

	<p>教育課程・指導計画の 共通理解</p>	<p>A</p>	<p>職員間においては教育課程の編成・実施の考え方について共通理解を持って取り組んできました。</p> <p>コロナ禍も3年目となり、新たな取り組みと共に少しずつ行事等も再会することができ、子どもたちの活動にも活気が戻ったことがうかがえました。その一方で、職員が行事に追われているのではないかと いう指摘が出てきてしまうことがあり、日常的な園生活と豊かな園生活とのバランスを考慮しながら、教育課程の見直しを図っていきたいと考えます。</p>
	<p>発達段階に即した適切な 乳幼児理解・援助</p>	<p>A</p>	<p>0歳から6歳までの子どもたちが生活する園において、他年齢の活動に触れることは、憧れを持ったり、大きくなることを楽しみにしたりすることに繋がっています。しかし急ぐことなく、その子の意欲の高まりを待ったり、その子なりのやり方で取り組んだりすることを大切にしてきました。未満児は特に月齢によって発達段階も異なるため、一人一人に即した援助を心がけ、環境を整えてきたことが保護者にも理解されたと思われま</p> <p>す。</p> <p>何らかの発達障害傾向が見られる子どもたちにとって、時には「皆と一緒に」が難しいこともあります。ご家庭とも連携を図り合理的配慮を行ったり、その子にとって今は何が必要かを考えたりして援助することができたと思われま</p> <p>す。</p>
	<p>小学校との 円滑な連携</p>	<p>A</p>	<p>今年度は一日入学が行われる機会も増え、学校への親しみも持つことができましたが、コロナ禍以前に比べると園と学校との直接的な交流は少なかったように感じます。そのような中でも、教師間の会議では進学先の小学校と個別に情報交換を行い、スムーズな小学校生活に移行できるよう連携を図ってきました。</p> <p>「小学校との円滑な連携」というと、年長児が対象となり、年長児の育ちが重視されがちですが、年長のみならず、他の年齢・学年の保育教諭も「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に置きながら、それぞれの活動を組み立てていくことを心がけてきました。</p> <p>今後『幼保小架け橋プログラム』が関係機関の主導で実施されていくこととなります。他園や学校・関係機関と協働して架け橋期のカリキュラム作成に、前向きに取り組んでいきたいと思</p> <p>います。</p>
	<p>職員の 資質向上</p>	<p>B</p>	<p>オンラインによる研修の機会が増え研修が受けやすくなったこともあり、それぞれが様々な研修に参加し、研修報告を通してお互いに学び合う機会を設けました。学びの場を持つことはできたものの、保育教諭が日常の保育業務に追われ、学びを実践につなげる余裕がなかったり、心身共に疲弊していたりする現状も浮かび上がってきました。</p> <p>子どもたちの前では笑顔を絶やさず、一人一人の育ちと向き合い保育に当たっている保育教諭等ですが、資質向上のためにも、心身共に余裕を持って適切に保育が行える環境の整備に取り組んでいきたいと考えま</p> <p>す。</p>

5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理 由
A	<p>新型コロナウイルス感染拡大により4月当初、3日間休園となりました。その後も感染は繰り返されたものの、以降は一部の学級閉鎖でとどまり、できるだけ保育の継続に当たることができました。保護者の皆様の日頃からの感染防止への協力が大きく、園は保護者の皆様に大変助けていただいたと感じています。</p> <p>保護者とのコミュニケーション不足を指摘されることが毎年続いています。連絡帳では限界があり、降園後の電話連絡等を丁寧に行っていくことも必要かと思われます。</p> <p>職員による自己評価は、園の一員としての自己を振り返り、園の課題として捉えていくようにしていきたいと思ひます。また、昨今問題となっている「不適切な保育」について、幸いにも大きな問題になるようなことは見られませんでした。保護者への連絡不足はある意味不適切であったとも考えられます。一人一人が自分のこととして捉え、振り返り、資質向上に努めるようにしていきたいと思ひます。</p>

6. 今後取り組むべき課題（すでに実施し始めていることを含む）

課 題	具 体 的 な 取 り 組 方 法
職員の資質向上に繋がる環境整備	<p>今回職員の自己評価から「働き方改革」が表面化してきました。子どもと向き合っている教育・保育時間とは別の保育業務により、時間的余裕がなくなっている現状は見逃せないところとなってきました。保育教諭等にとって日常保育の時間がより楽しく豊かな時間になるということは、子どもたちにとっても望ましい時間となり、子ども自身の喜びや楽しさにも繋がっていくと考えられます。このことから早急な改善を図る必要を感じ、園内委員会を設け取り組み始めています。</p> <p>次年度から保育業務のICT化を進めていくことになっています。それによって時間短縮されることもあれば、覚えるために時間を要する事柄も出てくると思われますが、前向きに取り組んでいきたいと思ひます。また職員の働き方を考える際には、子どもにとってそれはどうなのかという視点を大切に持ちながら検討を進めていくようにします。</p> <p>保護者の皆様の理解を要することも出てくるかと思われますので、丁寧な説明を行っていききたいと思ひます。</p>

7. 学校関係者評価委員の評価

2月3日に学校関係者評価委員の皆様にお集まりいただき、評価委員会を行いました。

学校関係者評価委員の皆様からは「コロナ禍に於いて保護者も園も、共に皆頑張っている。十分『A』の評価である」とのご意見をいただきました。

保護者アンケートでいただいたご指摘・ご意見を丁寧に理解し、今後も一人一人の園児を大切にしたい、意義のある園生活を提供して欲しいとのご意見を、期待を込めていただきました。

8. 財政状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

※ 4, 5 の評価基準

A	達成されている	C	取り組まれているが成果が十分でない
B	概ね達成されている	D	取り組みが感じられない